2015年7月11日　神於山シャープの森　活動報告

2015年7月13日
SGC本社事務局

1．活動日時：2015年7月11日（土）　9：00～12：00

2．参 加 者：11名　　・現役ＧＳ：６名　社友ＧＳ：４名 ＋ 現役ＧＳ金井さんの奥さん。

3．活動内容

・今年は、例年になく雑草の伸びが早く、草刈りは〝刈る・伸びる〟のイタチゴッコが続いています。

・今回は、6月27日のチーム神於山の活動で刈り残した暗渠周辺の林道と多目的広場側の斜面 及び 夏場に入り入山者が増えることから、林道から尾根道の遊歩道への入り口周辺を徹底的に刈り込み、記念樹ゾーンと多目的広場を整備しました。

・その結果、２年間放置していた為ジャングル状態になっていた暗渠の林道側斜面はすっかり綺麗になりました。また太い針金で割石を包んだ「ふとん籠」で護岸されている為、刈払機が入りづらい多目的広場側の斜面は、ハサミで手刈りし、ふとん籠がはっきり見えるようになりました。

・また「国見台」に続く尾根道の遊歩道への入口も、標識がしっかり見え、安心して入れるようになりました。

・休憩時は、現役ＧＳの金井さんが豆から挽かれた珈琲と、神於山シャープの森のヤマモモを使って金井さんの奥さんが作られたヤマモモゼリーという正に夫唱婦随のほっこりおやつで疲れを癒しました。

4．今後の活動

・８月はお盆休みを考慮して第１週目（８/１・土）に活動します。

・（NPO）神於山保全くらぶの炭焼釜を使わせてもらって、炭焼をしようという話が進んでいます。

・この話が進むと、太さ８～10cm・長さ80cm程度のクヌギ・コナラの丸木が200～300本必要になり、課題の間伐（＝薪炭の里山の生活体験）が一気に進むことになります。お楽しみに。

■暗渠周りの草刈り-１（多目的広場沿いの斜面）

・刈払機では刈り難いので、ハサミで手刈りしました。

before

刈りに入ったＧＳの姿が見えないほど草が茂っています。

after

汗だくの奮闘の成果です。スッキリしました。

刈払機が入りづらいので、作業は全て手刈りです。

ふとん籠が姿を現しました。太い針金で割石を包んでいます。

・現在の多目的広場は、元々沢筋だった所を2007年６月に高さで数メートル埋め立てて造った人口の広場です。

・「ふとん籠」（鉄線などで籠を作り、砕石を詰めたもの。河川工事の護岸などに使用される。蛇籠ともいう。）はその時に暗渠の護岸の為に２列設置されました。

・これにより、同年の台風４号の影響で岸和田市に100mmを越える豪雨が降った時も、雨水の勢いで上部の斜面の土砂が暗渠に流れ込んだものの大規模な土砂崩れは防ぐことが出来ました。

■暗渠周りの草刈り-２（林道沿いの斜面）

・手刈りと刈払機でスッキリ。暗渠溜りの中も刈り込みました。

ササにクズ・イバラが巻き付き、ジャングル状態です。

現役 GS の大石さんが、最後まで徹底刈り込み中です。

暗渠入口。くぐると保全くらぶの活動地に直結します。

香遠さん寄贈のサクランボの木。元気です。

■林道から尾根道の遊歩道への入り口周辺の草刈り。

標識が草に埋もれ、入るのを躊躇う状況です。

社友ＧＳの原さんが念入りに刈り込みました。

・ここはシャープの森の尾根道側の境界線になっている遊歩道への入口です。
・フクロウが営巣している間は、静かな環境づくりの為にあまり入って欲しくない気がしていましたが、国見台に繋がるハイキングコースの入口ですから、夏場の一般の入山者の為に整備しました。

遊歩道の階段もスッキリ見えるようになりました。

■疲れを知らない？ＧＳの面々と、神於山の自然の恵み。　頼もしい皆さんです。

余勢をかって記念樹ゾーンと多目的広場も整備。

隣接する林道もきれいにしました。

きれいになった暗渠をバックに、活動頂いた１０名のＧＳの皆さん。お疲れ様でした。

ヤマモモゼリーは、上品な酸味とさっぱりした甘味に仕上がっていて、大変美味しかったです。ごちそう様でした。

10 個　即完売！

クロヒカゲ

ジャノメチョウ亜科のクロヒカゲ。山地を中心に分布するため、低地ではあまり見られないとか。
大石さんのタオルに停まって動きませんでした。

ヤマモモゼリー。充分売れそうです。

萌芽更新した桐の木。今度は伐らずにおきます。

「桐」は、字が「木と同じ」と書くように木の様ですが、分類では、ゴマノハグサ科キリ属とか、ノウゼンカズラ科だとか、独立のキリ科だとか、諸説があるもののルーツは草の様です。
大体木と草の違いは「多年草で木部組織が発達するものを木本（木）という。」位ですから、根っこは草でも木と考えて良いようです。
となると「竹」や「笹」は木か草かどっちなんでしょう？

初夏はヤマモモ、秋はクリ。神於山シャープの森は自然の恵みがいっぱいです。

以上